

「高市早苗新政権の課題と展望」 倉重篤郎・メディア激動研究所客員研究員

●出自

◇自公システムの崩壊

- ・25年参院選 自民 39 (52) + 公明 8 (14) = 47 = 自公過半数・必達 50 - 3
- ・24年衆院選 自民 191 (256) + 公明 24 (32) = 215 = 自公過半数 233 - 18
- ・1999年から26年間続いた強固な与党体制 (ポスト55年) 日本政治の構造変化

◇玉突き政局

- ・参政党台頭ショック 25年参院 14 (選挙区7 + 比例7) 比例 742万 (12・5%) は野党2位 (国民 762万、立憲 739万) ←24年衆院 = 187万 (3・4%)・3議席 ←22年参院 176万 (3・33%)・1議席
- ・自民党総裁選での高市選択 高市 185 (149 36) 進次郎 156 (145 11) (外国人対策争点化・虐待エピソード 党員票4割獲得 議員票が共鳴現象) 12年総裁選とのアナロジー (安倍に尖閣の追い風)
- ・公明の連立離脱 高市には付いていけず
- ・維新との連立組み換え 右×右 (政策合意12分野 皇統男系男子+スパイ防止法)

●現状

◇足場の脆さと強さ

- ・連立の形式 閣外協力の限界 与党政策協議会の設置
- ・ロケットスタート 高支持率 高市トレード 外交デビュー トランプ好相性
- ・不信任案否決力保有 高市首班 = 衆院 237 (自民 196 + 維新 35 + 「改革の会」 3 + 「有志の会」 1 + 無所属 2) 過半数 233 超え

◇手堅い人事

- ・木原官房長官の采配 片山財務相 小野田外国人担当相 鈴木農相の答弁能力
- ・麻生副総裁の睨み 鈴木幹事長 萩生田代行 梶山国対委員長の役割分担
- ・官邸官僚強化 秘書官政務2人制 遠藤敬首相補佐官 (維新国対委員長)

●展望

◇政策遂行の可能性と限界

- ・物価対策 ガソリン暫定税率廃止 + α
- ・アベノミクス再稼働は困難 すでに出口政策 (漸進利上げ + 国債購入減額)
- ・積極財政論の隘路 積極財政 → 積極金融 → 積極財政? トラスリスクとの攻防
- ・防衛費2%年度内前倒し表明 25年度 1・8%に1兆円上乗せ (使徒と財源?)

◇政局運営の可能性と限界

- ・維新との連立維持 閣内取り込み、国民民主との水面下交渉
- ・解散戦略どうする? 自民単独過半数復帰への野心 高市人気 + 政策争点の巧妙化 (安倍モデル) 消費税食料品非課税 + 議員定数削減 v s 公明票の「行って来い」返し
- ◇11月15日自民結党70年という節目感 (自民党の時代対応能力の劣化と高市政権)